

# 茨城鉄道※（茨城交通・茨城線）

かつて「茨鉄線」の名で親しまれてきた茨城鉄道は、赤塚（水戸市）―御前山（城里町）間25.2kmを走っていた私鉄です。

大正15（1926）年、赤塚―石塚間の開業以来、昭和46（1971）年に最後に残った区間の赤塚―茨城大学前間が営業廃止になるまで、45年間にわたり、地域住民の足として走り続けました。

その後、線路敷の多くは道路に転用されましたが、廃止から半世紀近い時間が流れ、今や歴史の一コマを刻んだ事実も忘れ去られようとしています。

展覧会では、写真や資料によって蒸気機関車や列車の走る懐かしい光景を思い起こし、茨城鉄道が果してきた役割を振り返ります。

※昭和19年8月1日、戦時下の県内交通統合で茨城鉄道・湊鉄道・水浜電車等が合併し、茨城交通（株）となりました。以後、茨城鉄道は、茨城交通・茨城線となりましたが、愛称では「茨鉄線」と呼ばれており、文章中は、元の名前で記載しています。



**曙町駅**

曙町駅は、ホーム一面の停留場。茨鉄線が高いホーム、水浜線が乗り入れるとそれに続けて低いホームも設けられました。現在もブロック塀の名残りがみられます。（中川浩一氏撮影）



**大学前駅**

もとは「兵宮前」や「南袴塚」という駅名でした。戦後茨城大学が開校し、「大学前」となりました。最後まで残った茨鉄線は赤塚駅と大学前駅の区間でした。（昭和37年 三宅俊彦氏撮影）



**田野駅**

ホーム一面の停留場。田野駅は、昭和30年に開設されました。田野から飯富にかけて、鉄道には急な勾配を上りました。（昭和43年6月撮影「渡里小学校PTA結成50周年記念誌」より）



**那珂西駅**

那珂西駅では、官舎にいた細谷氏（上水戸駅や石塚駅に勤務）の家族が駅の業務を委託されていました。また、貨物のホームもあって、その一部が現在も保存されています。（昭和36年1月撮影 細谷三喜男氏提供）



**石塚駅構内の機関庫に入る11号機関車**

石塚駅は、茨鉄線では上水戸駅に次いで広い構内を持っており、古くは機関庫がありました。11号機関車は、大正15年、開業時に用意された1台（当初は1号機関車）です。（昭和34年撮影 宮崎精臣氏提供）